

文献

Hitchman, M.J., and G. Brasseur, 1988 : Rossby Wave Activity in a Two-Dimensional Model, Closure for Wave Driving and Meridional Eddy Diffusivity. *J. Geophys. Res.*, **93**, 9405-9417.
W.M.O., 1986 : Atmospheric Ozone 1985, Assess-

ment of Our Understanding of the Processes Controlling Its Present Distribution and Change, Geneva.

NASA Panel for Data Evaluation, 1987 : Chemical Kinetics and Photochemical Data for Use in Stratospheric Modeling, *JPL* 87-41.

事務局からのお知らせ

「日本応用数学会」設立準備委員会近藤次郎代表から下記の案内がありました。

「日本応用数学会」設立趣意書

(一部省略)

近年のわが国の工業技術の発展は目ざましく、とくに多くの先端技術の分野において他国の追跡を許さぬものがあります。小型コンピュータを始めとする各種情報処理機器は、社会の、そして産業の隅々にまで行きわたって、高度の知的作業を人間に代って受け持つようになってきています。また、スーパーコンピュータの発展と普及とも相俟って、設計、開発、製造の各過程における大規模なシステムの数理的取扱いの重要性が著しく増大してまいりました。しかし、残念ながら、わが国ではそれらの根底をなすソフトウェアを欧米に大きく依存しているが現状であります。このようなソフトウェアをわが国独自で開発し発展させる力をつけることが急務であることはいうまでもありません。そして、ソフトウェア技術の基礎となる最も重要なものは、道具としての数学であり、またそれを使いこなす数理的技術でありましょう。

科学技術計算や数値計画における数理の重要性は言うまでもありません。さらに、先端技術では、技術の壁を打ち破るために、つねに新しい発想とそれを実現させるための「何か」が要求されています。そして、その「何か」として、最近、数学に、とくにこれまでの数学の枠組みを越えた新しい数理的発想に、大きな期待が寄せられています。

このような機運の高まりを受け、私どもはこのたび日本応用数学会 (Japan Society for Industrial and Applied Mathematics, 略称 Japan SIAM) を設立し、活動を開始することにいたしました。

本学会には、シンポジウム・研究会・講習会の開催、会

誌・論文誌の刊行など学会としての標準的な活動を行う他に、常設あるいは特設の研究部会を設けて特に重要な問題について集中的に研究を行い解決にあたる、他学会における問題に対して数理的側面から解決の支援を行う、数学の新しい成果の普及も含めて広い意味での応用数学の教育活動に貢献する、応用志向の数学者を養成する体制の確立を図る、等々多くの仕事が期待されます。

1. ご入会手続きについて

「日本応用数学会発起人就任・入会ご回答」用紙に該当事項をご記入の上、

平成2年1月31日

までに下記宛に返送下さい。また、ご入会いただけます場合には、同封の会員カードに所要事項をご記入の上、併せてご返送下さい。

発起人就任・入会ご回答および入会カード返送先

〒113 東京都文京区弥生 2-4-16

日本学会事務センター「日本応用数学会」
担当

2. 年会費および入会金のご送金について

ご入会いただけます場合には、年会費および入会金を同封の振込用紙にてお振込み下さいますようお願い申し上げます。振込用紙の記載事項に誤りのある場合にはご訂正下さい。また、振込料金は恐縮でございますが振込人の方でご負担下さい。

平成2年度会費 9,000円 (平成2年4月～平成3年3月分)

入会金 2,000円

なお、設立趣意書にありますように本学会は横型の学会ですので、「日本気象学会の会員の方は入会金 (2,000円)」は免除となります